

学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」
 をハードウェアから開発する グループ名： Group1
 担当教員名： 三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行 学籍番号 1018167 氏名 宮嶋佑

1. 自己評価

| 評価項目 | 自己評価 (点数/満点) | 評価基準 |
|---------|-----------------|---|
| 出席 | 10 /10 | 無断欠席回数： ・ 0 回(10 点) ・ 1 回(5 点) ・ 2 回(0 点) |
| 週報 | 8 /10 | 標準点：7 点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？ |
| グループ報告書 | 7 /10 | 標準点：7 点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？ |
| 発表会 | 7 /10 | 標準点： 7 点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？ |
| 外部評価 | 7 /10 | 標準点： 7 点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？ |
| 積極性・協調性 | 9 /10 | 標準点： 7 点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？ |
| 計画性 | 16 /20 | 標準 14 点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？ |
| 成果 | 16 /20 | 標準 14 点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか ・ 自分たちが納得できる成果が得られたか？ |
| 合計点 | 80 /100 | |

(注)週報の不備を，システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること

2.理由

私は、全ての項目において評価基準をクリアしていると考えたため、標準点または、標準点以上の点数をつけた。標準点よりも高く点数を設定した部分について、はじめに、積極性・協調性では、グループ内の意見を出し合う場面や、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、自ら積極的に問題点や解決策を考案した。また、グループ内のみならず、プロジェクト全体にも、自分の気づいたことや考えたことについて、積極的に意見できたと考えている。次に計画性については、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、期日までにここまで終わらせるなど、途中にいくつかのゴールを設けた。そうすることで、日々の作業量の分散化、効率化を図り、最後になって慌ただしくなってしまうスケジュールにならないよう、調節を行った。最後に、成果については仲間の考えはもちろん、自分の考えも多く反映された発表ができた。また、中間発表終了後に、仲間から「助かった」や、感謝をされたりした。以上の、仲間からの言葉も鑑みて、成果の自己評価点数を基準点よりも高く採点した。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 伊藤 壱 :

とても頑張っていたと思います。宮嶋さんの論理的な意見に何度も助けられました。責任感が強く最後まで仕事をやり抜く力を見習いたいと思います。

サイン _____

コメンター氏名 藤内 悠 :

話し合いや全体での作業が滞ってしまいそうな時に革新的なアイデアを提示し、参考になりそうな情報や資料を前もって準備する姿勢にはグループ全体として助けられたことが多くありました。

サイン _____

コメンター氏名 木島 拓海 :

中間発表ではスライド資料の作成や動画の進行などやってもらいとても助かりました。また、CAD ではベアブリック の腕の様々な角度でどうなっているかを画像で送ってもらいとても参考になりました。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

教員サイン _____ 三上 貞芳

教員サイン 鈴木昭二

教員サイン 高橋信行

学習ポートフォリオ_配属時

| | |
|--|---|
| 所属プロジェクト | ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する - |
| 担当教員名 | 三上貞芳先生,鈴木昭二先生,高橋信行先生 |
| 氏名 | 宮嶋佑 |
| 学籍番号 | 1018167 |
| クラス | C |
| 現時点における学習目標は何ですか。(複数回答可) プロジェクト学習を通じて習得したい事柄を選んでください。 | プロジェクトの進め方; 複数のメンバーで行う共同作業; 学生同士でのコミュニケーション; 教員とのコミュニケーション; 技術・知識の習得方法; 作業を楽しく行う方法 |
| 上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。 | |
| 上記の目標達成のために、どのようなことを行う必要があると考えますか。(自由記述 200 文字以上) | 現時点では、まだ技術もなく、アイデアもないので、まずは何を作り上げるのか、アイデア出しから始める必要がある。アイデア出しでは、現実的に再現可能かなども大切ではあるが、夢であったり、好奇心、楽しさもアイデアの1つになると思う。そして、学生、先生同士でアイデアを交換し、それを再現するための技術を習得する。始まりの段階であるので、現実的に可能か不可能か、ではなく、楽しさあったり、仲間とのコミュニケーションを築く、技術を習得するといったことを、初期段階として掲げ、活動していきたいと考える。 |
| グループメンバーと協働することにより、課題を見出し、解決できる | まあまあできる |
| 活動を成功させるために必要な努力をする自信がある | できる |
| 証拠に基づいて意見を述べることができる | よくできる |

| | |
|---|---------|
| 自分で行った結果に対して責任を持つことができる | できる |
| 収集した情報を体系的に整理し、活用することができる | できる |
| さまざまなコミュニケーションの場面において、他者の話を注意深く、忍耐強く、誠実に聞き、正しく理解できる | よくできる |
| 活動の中で壁に直面したり、競争のプレッシャーがあっても、目標の達成に向けてやり抜くことができる | できる |
| 読み手や目的に合わせて、正確にわかりやすい文章を書くことができる | よくできる |
| 自分とは異なる意見が提示された際、冷静に分析し、自分の考え方を再考したり修正したりできる | できる |
| 情報を調査・整理・評価・伝達・共有する手段として ICT を利用できる | まあまあできる |
| グループのメンバーの状況を理解し、支援する | まあまあできる |
| どのような状況においても意欲的に活動に取り組むことができる | できる |

| | |
|--|---------|
| さまざまな情報源から必要な情報を効率的に探すことができる | できる |
| プライバシーや文化の差異に配慮して、責任をもって注意深くインターネット環境を利用できる | よくできる |
| 守秘業務、プライバシー、知的所有権に配慮しながら、身近な問題を解決するために、正確かつ創造的に ICT を利用できる | できる |
| 他人に関心を寄せ、他人を尊重することができる | できる |
| グループが目指す成果に到達するために優先順位をつけ、計画を立て、運営できる | まあまあできる |
| 正しい文法・語彙を使って話したり、書いたりできる | よくできる |
| 社会で一般に容認・推進されている行動規範にしたがって行動できる | よくできる |
| 他者を信頼し、共感することができる | できる |
| 活動を粘り強く行うために必要な集中力がある | まあまあできる |
| 情報を批判的かつ入念に検討し、評価できる | できる |

学習ポートフォリオ_中間

| | |
|--|--|
| 所属プロジェクト | ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する - |
| 担当教員名 | 三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行 |
| 氏名 | 宮嶋佑 |
| 学籍番号 | 1018167 |
| クラス | C |
| 配属時における学習目標は何でしたか。(複数回答可) | プロジェクトの進め方; 複数のメンバーで行う共同作業; 学生同士でのコミュニケーション; 教員とのコミュニケーション; 技術・知識の習得方法; 作業を楽しく行う方法 |
| 上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。 | |
| 上記の目標達成のために、どのようなことを行いましたか。(自由記述 200 文字以上) | コロナウイルスの中、コミュニケーションを取る方法が、オンラインが主となった。共同作業などを進めていくにあたって、顔を実際に合わせずにコミュニケーションを行うと、意見の相違が生まれやすい。その中で、文面などをいかに端的に伝えるか、また、的確に伝える方法として、箇条書きにするなど、相手に伝わりやすいコミュニケーション方法を特に心がけた。そして、前期は技術、知識の習得、作業を楽しく進めていく方法を重視した。新しい学びをする上で、まずは、レベルを低く設定して、吸収できるものは全て吸収していくことを心がけた。 |
| 前期の活動を終えて、学習目標は変化しましたか？ 現時点(7月末)における学習目標を選択してください。(複数回答可) | 複数のメンバーで行う共同作業; 発表(含むポスターの作成)方法; 技術・知識の応用方法; 作業を効率よく行う方法; 課題の解決方法 |
| 上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。 | |
| (9 の質問で学習目標が変化した学生) 学習目標が変わった理由 | 前期は、初めての経験や学習、作業が多くあったので、基本的なことを重視して学習目標を設定した。後期からは、ステップアップとして、学習目標を応用的な目標に変更した。学習目標を、 |

| | |
|---|---|
| は何ですか？(200 文字以上) | 技術、知識の応用、作業を効率的に行う方法といった、前期よりも 1 段階上に設定することで、自分自身のさらなる成長につなげたいと考えている。また、中間発表では、発表方法に個人的にはまだ、納得いかなかった部分が多々あったので、学習目標として、設定した。 |
| プロジェクト全体での作業をさらに深く時間をかけるべきだと考後期、学習目標の達成の | をさらに積極的に参加していくのはもちろんだが、個人的な学習をさらに深く時間をかけるべきだと考後期、学習目標の達成の |
| ために、どのようなことをな知識を土台とした、応用的な技術を使う場面が、今よりも増え行う必要があると考えます | ていくと考えられる。応用的な技術を使っていくためにも、個人の学習の時間で、基本的な学習に時間をかけていく必要があると考える。また、前期での経験を生かし、さらに効率的に、計画的に進めていけるように勤めたい。 |
| か。(200 文字以上) | |
| 前期の活動を振り返って、活動全体の印象や感想を書いてください。(自由記述 200 文字以上) | 前期の活動として印象的だったのは、主となる仲間とのコミュニケーション方法がオンラインであったことである。コロナウイルスの中で、前期は顔を合わせてコミュニケーションをすることはほぼなかった。また、自分自身、ここまでオンラインのコミュニケーションツールを使って、コミュニケーションを密に取ったことはなかった。オンラインならではの、コミュニケーションの取り方の難しさ、そしてどう工夫すべきかが学べた。後期では、対面での活動になることを願いつつも、オンラインでのコミュニケーション方法について、さらに工夫できる点があるかなど、オンラインでのコミュニケーションに磨きをかけていきたいと感じた。 |
| グループメンバーと協働することにより、課題を見出し、解決できる | できる |
| 活動を成功させるために必要な努力をする自信がある | できる |
| 証拠に基づいて意見を述べることができる | まあまあできる |
| 自分で行った結果に対して責任を持つことができる | できる |

| | |
|---|---------|
| 収集した情報を体系的に整理し、活用することができる | まあまあできる |
| さまざまなコミュニケーションの場面において、他者の話を注意深く、忍耐強く、誠実に聞き、正しく理解できる | まあまあできる |
| 活動の中で壁に直面したり、競争のプレッシャーがあっても、目標の達成に向けてやり抜くことができる | まあまあできる |
| 読み手や目的に合わせて、正確にわかりやすい文章を書くことができる | まあまあできる |
| 自分とは異なる意見が提示された際、冷静に分析し、自分の考え方を再考したり修正したりできる | できる |
| 情報を調査・整理・評価・伝達・共有する手段として ICT を利用できる | できる |
| グループのメンバーの状況を理解し、支援する | できる |
| どのような状況においても意欲的に活動に取り組むことができる | できる |
| さまざまな情報源から必要な情報を効率的に探すことができる | まあまあできる |

| | |
|--|------------|
| プライバシーや文化の差異に配慮して、責任をもって注意深くインターネット環境を利用できる | できる |
| 守秘業務、プライバシー、知的所有権に配慮しながら、身近な問題を解決するために、正確かつ創造的に ICT を利用できる | できる |
| 他人に関心を寄せ、他人を尊重することができる | できる |
| グループが目指す成果に到達するために優先順位をつけ、計画を立て、運営できる | まあまあできる |
| 正しい文法・語彙を使って話したり、書いたりできる | できる |
| 社会で一般に容認・推進されている行動規範にしたがって行動できる | できる |
| 他者を信頼し、共感することができる | できる |
| 活動を粘り強く行うために必要な集中力がある | できる |
| 情報を批判的かつ入念に検討し、評価できる | できる |
| あなたは前期のプロジェクト学習に意欲的に取り組みましたか？ | 意欲的だった |
| 前期の活動を行ったことにより、あなたはプロ | まあまあ興味を持てた |

| | |
|--|--|
| プロジェクト学習の内容に興味を持てるようになりましたか？ | |
| 前期のプロジェクト学習の活動は、あなたの今後に役立つと思いますか？ | 役に立つ |
| 今後、同じようプロジェクトを行うことになったら、もっとうまくやれる自信がありますか？ | まあまあ自信がある |
| 前期のプロジェクト学習の活動に満足していますか？ | まあまあ満足している |
| オンラインでの発表に関して、問題点の指摘や改善方法の提案などがあれば記してください。 | 中間発表で、15 分で移動時間がないのはかなり厳しかった。できれば、2 分ほどの zoom 部屋の移動時間が欲しいと感じた。 |